



「国民的議論」に示された民意と 今後のプロセス

eシフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)

国際環境NGO FoE Japn

吉田明子

eシフト

eシフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)とは、

2011年3月11日の福島第一原発事故を契機に、脱原発と自然エネルギーを中心とした持続可能なエネルギー政策を実現させることを決意した、団体・個人の集まりです。

- 1「事故被害の最小化」と「責任所在の明確化」
 - 2「脱原発と持続可能なエネルギー政策に向けた政策提言づくり」と「その実現」
 - 3「市民への有益な情報発信」と「社会的ムーブメントの巻き起こし」
- の3つの分野で活動を展開しています。

さまざまな団体の立場の違いを乗り越え、お互いの長所を活かしながら、本当に豊かで安心できる持続可能な社会を作るための大きなうねりとなっていくことを目指しています。固定的な組織体ではなく、緩やかなネットワークによる活動母体として機能しています。

<http://e-shift.org>

参加団体 (2012年8月現在、約50団体+個人、全体約250名)

国際環境NGO FoE Japan、環境エネルギー政策研究所(ISEP)、原子力資料情報室(CNIC)、福島老朽原発を考える会(フクロウの会)、大地を守る会、NPO法人日本針路研究所、日本環境法律家連盟(JELF)、「環境・持続社会」研究センター(JACSES)、インドネシア民主化支援ネットワーク、環境市民、特定非営利活動法人APLA、原発廃炉で未来をひらこう会、気候ネットワーク、高木仁三郎市民科学基金、原水爆禁止日本国民会議(原水禁)、水源開発問題全国連絡会(水源連)、グリーン・アクション、みどりの未来、自然エネルギー推進市民フォーラム、市民科学研究室、グリーンピース・ジャパン、ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン、フリーター全般労働組合、ピープルズプラン研究所、ふえみん婦人民主クラブ、No Nukes More Hearts、A SEED JAPAN、ナマケモノ倶楽部、ピースボート、WWFジャパン(公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン)、GAIAみみをすます書店、東京・生活者ネットワーク、エコロ・ジャパン・インターナショナル、メコン・ウォッチ、R水素ネットワーク、東京平和映画祭、環境文明21、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)、ワーカーズコープ エコテック、日本ソーラーエネルギー教育協会、THE ATOMIC CAFE、持続可能な地域交通を考える会(SLTc)、環境まちづくりNPOエコメッセ、福島原発事故緊急会議、川崎フューチャー・ネットワーク、地球の子ども新聞、東アジア環境情報発信所、Shut泊、足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ、足元から地球温暖化を考える市民ネットたてばやし、東日本大震災被災者支援・千葉西部ネットワーク、東アジア環境情報発信所、アジア太平洋資料センター(PARC)

エネルギー政策の見直し

3つの見直し

2011年

6月

8月

1月

2012年

3月

7月

8月



●成長戦略再設計:

「革新的エネルギー・環境戦略」

国家戦略室

エネルギー・環境会議

検討開始

7/29 中間 12/21 基本方針案

6月末: 選択肢、国民的議論

●エネルギー基本計画見直し:

経済産業省 総合資源エネルギー

調査会、基本問題委員会

10/3 開始

5月末: 選択肢原案

●原子力政策大綱見直し:

内閣府 原子力委員会

9/27 議論再開

6月: 原案提示

●温暖化政策見直し:

環境省 中央環境審議会

6月: 原案提示

国民の声を届けるアクション(2012年、eシフト)

「国民的議論」の方法

- 1) 専用ウェブサイトによる情報発信
- 2) パブリックコメント
- 3) 意見聴取会(全国11箇所)
- 4) 討論型世論調査
- 5) 民間主催の説明会への協力

ほかにも、マスコミの世論調査などを参考にする

自主的意見聴取会開催の呼びかけ

- ・eシフトでも東京、福島で開催
- ・全国22箇所です自主的な会合開催

パブコメ参加呼びかけ

- ・「パブコメで未来を変えよう」ウェブサイト
- ・首相官邸前デモなどでのちらし配布
- ・各団体からの呼びかけ



パブコメ総件数:

約8万9000件

うち、原発ゼロ9割、

即時ゼロ8割



ウェブサイト:パブコメで未来を変えよう

パブコメで未来を変えよう

最新 (RSS) コメント (RSS)

パブコメで未来を変えよう | パブコメの書き方 | 意見聴取会に行く | 自主的意見聴取会に行く | 皆のパブコメを見る | 自分のパブコメをシェアする | パブコメくとチラシダウンロード

現在「原子力災害対策指針(改定原案)」に対するパブリックコメントが募集されています。締め切りは2013年2月12日(火)です。避難基準(事故後最初の救済時間)は毎時500μSv、その後は毎時20μSv等に関して、あなたの意見を送ります。2月9日(土)18:00~20:00「みんなであそぼう!」パブリックコメントの実践セミナーにもぜひ参加を。

パブコメで未来を変えよう

「エネルギー・環境に関する選択肢」のパブリックコメントの募集は終了しましたが、パブコメは送って終わりではありません。ネクストステップとして、パブリックコメントや意見聴取会の結果をエネルギー政策に反映させるように

1) 地元の議員等に対する選挙区デモを行います! 詳しくは「選挙区デモで未来を変えよう」のサイトをご覧ください。

2) 次の参議院選挙で、パブコメ結果を政策にきちんと反映させてくれる議員に投票しましょう! 詳しくは「原発全廃」のサイトをご覧ください。

また、このパブリックコメントを含む国民的議論の資料や動向は、政府の「話そう! エネルギーと環境の未来」のサイトでも見ることができます。

◆パブリックコメントとは

公的な機関が規則あるいり命令などの類のものを制定しようとするときに、広く公開(パブリック)に、意見・情報・改善案など(コメント)を求める手続をいいます。公的な機関が規則などを定める前に、その影響が及ぶ対象者などの意見を事前に聴取し、その結果を反映させることによって、よりよい行政を目指すものである。通称「パブコメ」

◆「エネルギー・環境に関する選択肢」のパブリックコメントの概要

6月29日、政府の「エネルギー・環境会議」から「エネルギー・環境に関する選択肢」が提示され

【資料集】

- 2012年9月3日eシフト声明「原子力災害対策指針の法改正」
- 「エネルギー・環境に関する選択肢」ガイドブック
- 「eシフト声明」原発ゼロは必ずしも安全な道ではないで持続可能な社会を
- 「ISFPのエネルギー政策の選択肢に関する討論会」
- 「議員提案をめざす委員会声明」
- 「意見交換会レポート」
- 呼びかけ団体(集まっています)

パブコメくんのツイ

- パブコメ準備も完了したパブコメが3000以上の機関等での決定案(原発指針の改訂(06年10月)に制5日の長期審議を求むようー)批判5 hours ago
- なかなかパブコメ王国のAction10mi @pubcom 定年専業主婦にも、ぜひね! nnr.go.jp/public/24out ago

eシフト

パブコメで未来を変えよう

「エネルギー・環境に関する選択肢」についての
ガイドブック

eシフト (出版費・新しいエネルギー政策を実現する会)
e-shift.org



パブコメくん



福島／郡山での意見聴取会

- 福島の実況を直視してほしい。問題は何も解決していない。
- 経済界ではなく、人々の視点から考えるべき。
- お金のことしか書いていないが、いのちの問題が忘れられている。
- 8月1日の福島での「意見聴取会」について、情報を公開すべき(7月20日時点で)。みな大変関心を持っている。
- 福島市で平日のみとは、参加できない。休日にも設定し、複数個所でやるべき。
- 福島県民はほとんど原発ゼロを望んでいる。この声をしっかり伝えてほしい。
- ゼロシナリオを求める声が圧倒的だった場合、それは反映されるのか？



国家戦略室への働きかけと対応

＜働きかけと変化＞

- 福島での「意見聴取会」開催
- パブコメの期間延長→7月末
- 「自主的意見聴取会」の場の設定
- 集まった全パブコメの公開
- 「国民的議論」の結果取りまとめ過程への第三者の参加、議論の公開



＜難しかったこと＞

- 福島県内複数個所での「意見聴取会」開催
- エネルギー環境会議の公開

過半の国民が「原発ゼロ」を望む

- **少なくとも過半の国民は原発に依存しない社会にしたいという方向性を共有している。**
- **ゼロにするスピード感、実現可能性については意見が分かれている、または定まっていない。**
- **パブコメやデモなど、多くの国民が直接行動を起こしている。その背景には政府への不信と原発への不安。**



9月14日「革新的エネルギー・環境戦略」決定
「2030年代に**原発稼働ゼロ**が可能となるよう、
あらゆる政策資源を投入する」

核燃料サイクル政策継続(保留)、「原子力を今後も重要な電源として位置づける」、設置許可済み原発は「新設」に当たらないなどなど、脱原発の方向と矛盾する方針や先送りばかりだが...

「革新的エネルギー環境戦略」 決定後の動き

9月14日：エネルギー・環境会議にて
「革新的エネルギー環境戦略」策定

→これを受けて、経済産業省で、「エネルギー基本計画」の
見直しを行うはず・・・

9月18日：第32回基本問題委員会開催
・三村委員長が「個人的に反対」発言
・委員からも反対の意見書

9月19日：「今後のエネルギー・環境政策について」
閣議決定

“今後のエネルギー・環境政策については、「**革新的エネルギー・環境戦略**」を
踏まえて、関係自治体や国際社会等と責任ある議論を行い、国民の理解を得つ
つ、柔軟性を持って不断の検証と見直しを行いながら遂行する。”

「革新的エネルギー—環境戦略」 決定後の動き

11月14日：第33回基本問題委員会開催（2ヶ月ぶり）

- ・三村委員長ほかから「現実的でない」との意見書
意見は平行線で対立
- ・eシフトから要請書提出

「脱原発を柱とする新しいエネルギー基本計画を」

- ・枝野大臣から、革新的エネルギー—環境戦略に基づく
計画を、との発言

→しかしこの後、衆議院解散

今後のエネルギー政策見直しプロセス に向けて

- 基本問題委員会は打ち切り
- 革新的エネルギー・環境戦略は「ゼロベースで見直し」
- エネルギー基本計画の見直しは、2013/2014年（予定）
それまでは、2010年のエネルギー基本計画



- 基本問題委員会に変わる「新たな枠組み」での審議 ← 委員構成は？
- 2月または3月にスタート、本格的な検討は7月以降 ← 議論の公開を！
- 革新的エネルギー環境戦略や、基本問題委員会宛の意見は、参考にする ← 具体的な検討方法は？
- 新しい枠組みでの市民の意見の集約方法は？
新たな「国民的議論」が必要

脱原発を含む エネルギー基本計画策定に向けて

- すでに大々的な「国民的議論」で、脱原発を求める市民の声は示されている。
- 「革新的エネルギー環境戦略」ゼロベース見直しは、「国民的議論」「国民の声」の無視ではないか？
- 新たな枠組みで議論するのであれば、公正な人事、プロセスの公開と、民意を問うしくみ（新たな国民的議論）を！

- 参議院選挙にむけ、「脱原発」の国民の声をあらためて可視化するキャンペーン
- 6月末までに10万の「原発ゼロノミクス宣言」



- 脱原発は経済的にも唯一の手段であることをわかりやすく示す。